

[3] 起業家精神・・・起業家とは、秩序を破壊し解体するものである。 シュンペーターが明らかにしたように、起業家の責務は「創造的破壊」である。

①椅子の脚をのこぎりで挽く

事業活動とは、変化を起こそうとする経済活動である。 それは、座っている椅子の脚をノコギリで挽くことに似ている。現在のリスクをさらに危険なものとし、まったく新しいリスクを生みだそうとする。

②リスクを避けることのリスク

事業においては、リスクを最小にすべく努めなければならない。 だが、リスクを避けることにとられるならば、結局は最大にしてかつ最も不合理なリスク、すなわち無為のリスクを負う。

③起業家は価値と満足を創造する

起業家として成功する者は、価値を創造し社会に貢献する。 すでに存在するものの修正や改善では満足しない。 価値と満足を創造し、単なる素材を資源に変える。 あるいは新しいビジョンのもとに、既存の資源を組み合わせる。

④成功はリスクより大きい

起業家は、生産性が低く成果の乏しい分野から、生産性が高く成果の大きい分野に資源を動かす。 そこには、「成功しないかもしれない」というリスクはある。 しかし多少なりとも成功すれば、その成功はいかなるリスクをも相殺して余りあるほど大きい。

⑤イノベーションの原理と方法を学ぶ

起業家たる者は、イノベーションの機会を示す兆候を見つけなければならない。 イノベーションに成功するための原理と方法を学び、使わなければならない。

⑥成功した起業家に共通するもの

成功した起業家に共通するものは、性格ではない。 体系的にイノベーションを行っていくことである。 イノベーションは、起業家に特有の機能である。 既存企業、社会的機関、あるいは小さなベンチャーでも変わらない。 イノベーションこそが、起業家が富を生み出すための道具である。

⑦体系的たるべき起業家精神

ハイテク分野の起業家精神さえ、ベル研究所やIBMの経験が示すように、リスクは必ずしも大きいわけではない。ただし、そのためには体系的でなければならない。マネジメントしなければならない。目的意識を伴ったイノベーションを基礎としなければならない。

⑧起業家はリスク志向ではない

イノベーションを行う人たちは、小説の主人公のように、リスクを求めて飛び出すよりも、**時間をかけてキャッシュフローを調べる。**

⑨起業家は機会志向である

イノベーションに成功する者は、**保守的である**。保守的たらざるを得ない。彼らはリスク志向ではない。**機会志向である。**

⑩方法論を持たないハイテク起業家

起業家精神にリスクが伴うのは、一般に、起業家とされている人たちの多くが、**自分のしていることを理解していないからである。方法論を持たないからである。初歩的な原理を守らないからである。**このことは、特にハイテクの起業家について言える。

⑪イノベーションが自己革新をもたらす理由

イノベーションと起業家精神が、社会、経済、産業、社会的サービス、企業に自己革新をもたらすのは、まさにそれが一挙にではなく、この製品、あの政策、あちらの社会的サービスというように、**段階的に行われるからである。**

⑫イノベーションと起業家精神を日常とせよ

今やイノベーションと起業家精神が、組織、経済、社会における生命活動とならなければならない。あらゆる組織がイノベーションと起業家精神を持って、正常にして継続的な日々の活動としなければならない。